



帝京科学大上野原キャンパスに昨年発足したサークル「両棲・爬虫類研究会」は、ヘビやトカゲ、カメレオンなどに興味を持つ学生が集まり、それぞれ自宅で自慢のペットを飼っている。苦手な人も少なくない両生類や爬虫類をこよなく愛するメンバー。その半数以上は女性だ。どんなペットに愛情を注いでいるのか、そしてその魅力とは…。(植松利仁)

## 帝京科学大の両棲・爬虫類研究会

# ヘビ、トカゲに愛情

昨年5月に発足し、現在メンバーは14人。このうち女性が10人ほどを占める。半数以上が女性という状況について、代表の中村あかねさん(アニマルサイエンス学科3年)は「ヘビやトカゲは気持ち悪がられることもあるけれど、よく見ると動きや表情がかわいらしい。そこが女性に受けている理由ではないか」とみる。

### 「飼いやすい」

1人暮らしで、イヌやネコを飼うとすると、餌代がかかり、室内を荒らしてしまうこともある。中村さんは「餌代や散歩など飼育の手間があまりかからない。小さいケージに入れておけばいいので場所も取らず、アパートなどでペットとして飼うには適している」と話す。

イヌやネコ同様、名前を付ける学生も。ヘビとトカゲが好きだという中村さんはボールパイソン(ニシキヘビ科)に「パスタ」、ヒョウモントカゲモドキ(ヤモリ科)には「ティーテ」と、パスタの種類にちなんで名付けている。長島真由子さん(同)はヒョウモントカゲモドキに

「出雲」と命名。前に飼っていたのが「東雲」だったので「雲」を使った名前を受け継いだという。

研究会では月2、3回の学習会や観察会、ペットショップ巡りなどをして知識を深めている。5月には、新生入の入学希望者を対象にした説明会を開いた。

中村さんは、ヘビとトカゲの違いについてプロジェクターを使って紹介。「足がないからヘビというのは間違い」「地中生活のヘビやウミヘビでは腹板(腹にあり、進むために地面をとらえる連なったうろこ)がない種類もいる」などと解説。関根彰将さん(同)は映像を交えながらカメレオンの生態について説明した。

体温調整ができない両生・爬虫類の飼育は温度管理が重要。関根さんには100匹以上のペットがいたが、「2014年冬の大雪で暖房が機能なくなり、ほぼ全滅してしまった」というエピソードも紹介した。

### 癒やし効果も

説明会に参加したアニマルサイエ

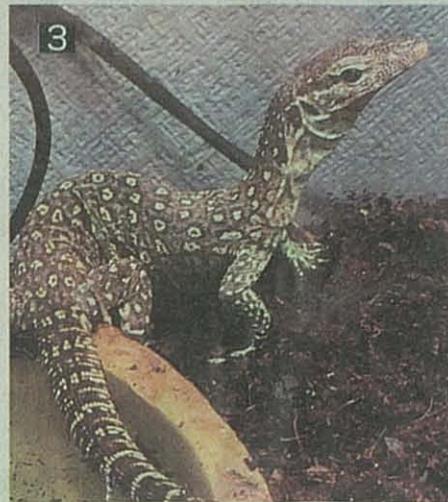
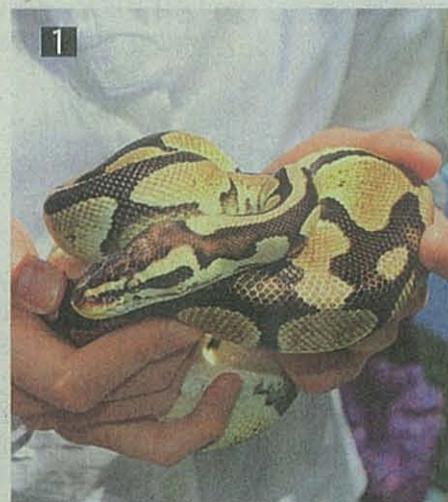
## 半数以上が女性メンバー

ンス学科1年の相原亮一さんは「シマヘビやアオダイショウなどを飼いたいと考えている。先輩に飼い方のポイントなどを教えてほしい」と話し、入部を決めた。

同キャンパス周辺には、同学科の学生に配慮し「ペット可」のアパートが他地域に比べて多い。ヘビやトカゲは鳴き声や臭いがない分、理解

を求めれば受け入れてくれる家主もいるという。

「イヌやネコなどと同じように両生類・爬虫類にも表情があるし、あくびもする。おっとりした動きを見ていると、あっという間に時間がたつ」と関根さん。ほかの動物同様、アニマルセラピー(癒やし)効果は抜群なようだ。



1中村あかねさんのボールパイソン「パスタ」2長島真由子さんのヒョウモントカゲモドキ「出雲」3田辺暢哉さんのチモールモニター(和名はヨシノポリオオトカゲ)4毛利みら乃さんのレッドテグー「メタル」



新入生のため両生類や爬虫類の特徴を紹介するメンバー  
|| 帝京科学大上野原キャンパス